

神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）に関する委員会 第3回

1 日時

令和6年5月31日（金曜日） 10時00分から11時15分

2 場所

クーポール会館 2階 2-A（静岡県静岡市葵区紺屋町2-2）

3 出席委員

岩田 孝仁	静岡大学 特任教授	
大久保 あかね	静岡県立 大学教授	※
奥 真美	東京都立 大学教授	※
◎中村 英樹	名古屋大学 教授	
藤山 知加子	横浜国立大学 教授	
二村 真理子	東京女子大学 教授	

【五十音順：敬称略】◎は委員長 ※はWEB出席の委員

3 出席オブザーバー

鳥畑 一博	国土交通省関東地方整備局道路部道路計画第一課長
柴田 康晴	国土交通省中部地方整備局道路部道路計画課長

議 事 概 要

規約の改正について

- 関東地方整備局、中部地方整備局のオブザーバー参加を提案し、オブザーバーを追加した規約改正案について承認された。

広域道路ネットワークにおける位置づけの整理等について

- 広域的な視点から、伊豆湘南道路に求められる機能や役割を検討していくことについて、妥当性が確認された。
- 機能や役割の検討にあたっては、車線数や交通容量などの量

の論理にとどまらず、拠点間の旅行速度等から、平日と休日、平時と災害時、観光シーズンにおける地域の課題を踏まえ、シームレスなサービスを確保することについて整理してもらいたい。

- 大雪の影響について、過去 30 年間のデータを使用しているが、昨今は気候変動により極端な状況が発生しているため、留意すること。
- 災害については、2014 年（平成 26 年）2 月の大雪、箱根火山や首都直下地震、その他有事の際の広域避難についても観点に加えてもらいたい。
- 断層や山、谷等の地形について、ルート帯の検討時に整理し、評価してもらいたい。
- 伊豆湘南道路ができることによって、伊豆半島における観光や物流がどの程度活性化するのか検討してもらいたい。
- 当該地域は地形が複雑で、施工リスクが高いエリアであるため早期に整備手法について議論すべきだが、まずは伊豆湘南道路に求めるサービスレベル等、機能や役割について検討してもらいたい。
- 観光ピーク時とオフピーク時や、平日と休日における交通量や人流のデータについても整理してもらいたい。

今後の検討の進め方（案）について

- 今後の検討の進め方（案）について承認された。

以上